

科 目 名 称	教育実習					英語コミュニケーション (教) オフィス情報 (教)
英 文 科 目 名 称	Practice Teaching					留学 (教) 医療事務・医療秘書 (教)
科 目 コ ー ド	541220	授業形態	実習	単位数	5	ビジネス・キャリア (教) スポーツ健康 (教)
教 員 氏 名	横堀 仁志	年次配当	2年次	前期	ホテル・観光 (教) 大学編入 (教)	
授 業 概 要	①教育実習の概要を講義形式で学び、実習に向けての心構えを持つ。 ②実践的な指導技術を講義形式で学び、理解を深める。 ③教育実習後の事後指導を行い、実習で学んだ事柄について更に理解を深める。事後指導ではディスカッションを行い、教育実習体験を共有し、教育実習中の様々な事柄についての改善方法などを検討する。 ④介護等体験に向けて障害に関する基本的な事項を講義形式で学ぶ。					
授 業 計 画	<p>【事前指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の目的と心構え：教育実習の目的を理解し、現場でどのようなことを学ぶのか、実習生としてどのようなことを期待されているなどについて理解を深める。 2. 基本的な指導技術：話し方、板書の仕方、指名の方法、指導形態について学ぶ。 3. 指導の原則①：指示の意味や目的を明確にすることの重要性を理解する。 4. 指導の原則②：指示・発問は簡潔で分かり易くなくてはならないことを理解する。 5. 指導の原則③：指示をする際は必ず全員に向かって行わなければならないことを理解する。 6. 指導の原則④：指導をする際は指導内容を細分化する必要があることを理解する。 7. 指導の原則⑤：授業中は空白の時間を作ってはならないこと、そしてその理由を理解する。 8. 指導の原則⑥：授業中に生徒の理解度を何度か確認することの重要性を理解する。 9. 指導の原則⑦：授業中は全体的に評価するのではなく、生徒一人ひとりを個別に評価することの重要性を理解する。 10. 指導の原則⑧：授業中は褒め、激励し続けること肝要である。その重要性を理解する。 <p>【事後指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の成果及び感想を報告する。 2. 教育実習の反省：教育実習で学んだことや疑問に思った点についてディスカッションし、考察する。 3. 介護等体験①：介護等体験の意義や目的について理解を深める。 4. 介護等体験②：自閉症に関する基礎知識を学ぶ。 5. 介護等体験③：ダウントン症に関する基礎知識を学ぶ。 					
授業時間外の学習	図書館などで教科の授業・指導技術に関する本を読み、教育実習に向けてなるべく多くのアイディアを収集しておく。同様に、介護等体験に向けて障害に関する書籍に当たり、障害に関する理解を深めておく（教育実習以外の 12 週間で、毎週 3 時間の学修を想定）。 ※教育実習期間中の学修は 120 時間（実習）+ 実習外での準備等 45 時間=合計 165 時間を想定。					
授業の到達目標	①教育実習に関する理解を深め、基礎知識を身につける。 ②教育実習での指導に必要な基本的な指導技術について理解を深める。 ③教育実習を通じて特別活動、教科、道徳の指導技術を実践し、身につける。 ④介護等体験に向けて障害に関する基礎知識を身につける。					
評 價 方 法	教育実習の成績 (60%)、教育実習日誌 (20%)、レポート課題 (20%)					
テ キ ス ト	使用しない。					
参 考 書	『授業の腕をあげる法則』向山洋一著 明治図書 『ふしげだね！？自閉症のおともだち』内山登紀夫（監修）、諫訪利明（編集）、安倍陽子（編集） ミネルヴァ書房 『ふしげだね！？ダウントン症のおともだち』玉井邦夫（監修） ミネルヴァ書房					
備 考	特になし					